



わたしたちの縁側

市学生

このコーナーは、地域の課題解決について研究している龍谷大学政策学部の学生の皆さんが取材しました。有田市でのフィールドワークなどでの活動を通じて感じた「縁側」の魅力をもっと多くの人に伝えるため、学生自ら取材を行い、記事を書いています。今回は、1年間にわたる活動を通じて感じたことを学生の皆さんに質問形式で伺いました。
※ここでの「縁側」とは、「ホッとできる自分の居場所」という意味です。



歌声を響かせ、地域の力に

有田市少年少女合唱団 「ティンクル」

土曜日の朝、箕島公民館から、子どもたちの元気な歌声が聞こえてきました。歌っているのは、有田市少年少女合唱団「ティンクル」の子どもたち。定期演奏会をひかえ、みんな真剣に練習をしていました。

有田市少年少女合唱団「ティンクル」は30年ほど前に発足されました。歌の好きな子どもたちが集まり、学区を越えて仲良く歌の練習をしています。

現在の団員は小学3年生と5年生のあわせて10人。少ないながらも、一人ひとりが声を大きく出し、迫力のある歌声を響かせています。



→ 漁港で味わう海の幸は 格別のおいしさでした

①1年間の取材お疲れ様でした。だいたい2カ月に1回のペースで有田市に取材に訪れていたのですが、まことに對してどんな印象を持たれましたか。
②有田市は自然が豊かで時間の流れが緩やかに感じました。特に、箕島駅から商店街を抜ける時、川や緑がパースと目の前に広がる景色が好きです。
③多くの有田市の方々に取材を行っていただきました。道で出会った方に急に取材をお願いしたりもしましたが、その時の市民の方々の人柄や印象はどのよう感じましたか。
④たくさんまちなちの人とお話したり取材したりしましたが、誰に

も突っぱねられることなく温かく迎えてくれたという印象です。有田市の人たちって、どんな人にも心の距離が近い気がします。まちなちのコミュニティが、市外の私たちでもすぐ輪の中に入れました。あと、まちなちの資源を活用した仕事をされている人たちが多く、仲良しの秘訣になっていくのかなと思いました。みかさんは買わなくても農家さんがお裾分けしてくれる。って出会った人たちが口を揃えて言っていてびっくりしました。それから、漁師さんも年齢を問わず仲良しだったのが印象的でした。
⑤取材を通して色々な食べ物を食べる機会があったかと思いますが、その中で印象に残っているものはありますか。
⑥箕島漁港で5月に開催されたお魚勉強会へも取材に行かせていただきました。が、太刀魚の練り天(ほねく)を網焼きしたもの



思わず川で はしゃいでしまいました



夏に訪れた有田川 冷たい水が気持ちよかったです

合唱って楽しいよ

ハモれたときは、きれいでうれしい!

思っきり歌えるのが気持ち良い!

演奏会の最後に拍手をもらえたときは最高です☆

歌がもっと好きになりました♪

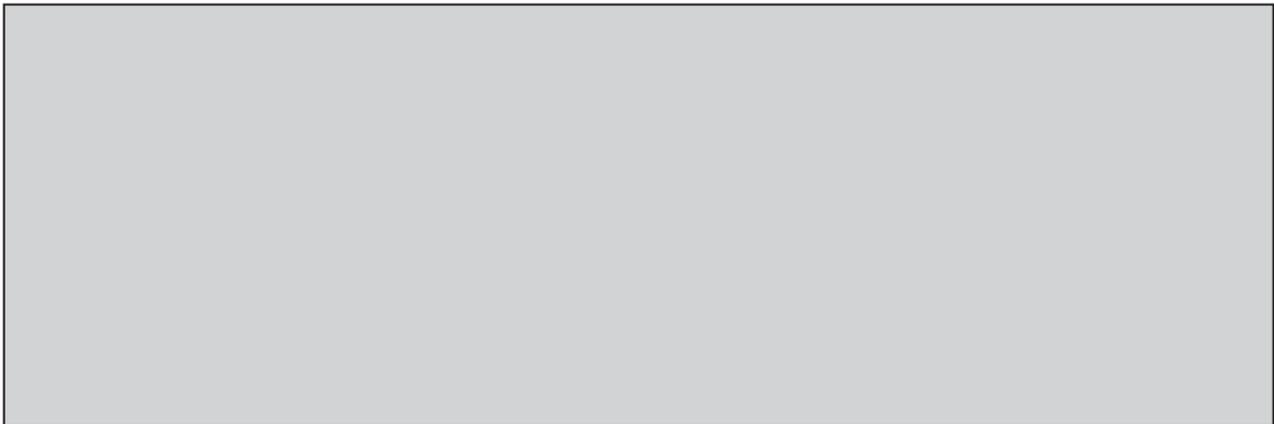


▲中道あずさ先生 (指揮) 浜地仁美先生 (ピアノ)

指導の先生にお話を伺いました。 合唱を通じて、子どもたちの変化を感じますか? 人数が少ないので、自分の声を出さなければ、という意識を持つようになった。また、自分の声か他の子たちの声と合わさった時、その歌声の美しさに気づくことで、まわりの歌声も聞くようになりました。

指導をつづいて、どんな瞬間が心に残っていますか? 演奏会が終わったあとの子どもたちの表情です。やりとげたという達成感を感じていることが伝わってきますね。 演奏会へ来てくださったお客様から、「もっと聞きたいよ」という言葉をいただいた時、地域のためになれるのかな、と感じます。 今後のいきごみを聞かせてください。 定期演奏会などの発表の場を通して、歌の好きな子が増えればうれしいです。 有田市唯一の子どもの合唱団として、がんばっていきたくです。

広告



広告

